

2016年8月

日本を愛した、エミール・ガレ。彼を追い求めたドーム兄弟。約100点の名品を一堂に。

ガレとドーム展

美しき至高のガラスたち

■会 期：2016年8月31日（水）～9月12日（月）

*ご入場時間：午前10時30分～午後7時（午後7時30分閉場）

*最終日、9月12日（月）は午後5時30分まで（午後6時閉場）

■会 場：日本橋高島屋8階ホール

■入場料：一般800円、大学・高校生600円、中学生以下無料

■主 催：読売新聞社 ■企 画：imura art planning

<巡回予定>横浜高島屋：2016年9月14日（水）～26日（月） / 京都高島屋：2017年1月6日（金）～16日（月）

19世紀末から20世紀初頭にかけてヨーロッパを中心に花開いた装飾スタイル、アール・ヌーヴォー。その巨匠の一人として讃えられる人物こそ、ヨーロッパ近代工芸史に革命をもたらしたガラス工芸家エミール・ガレその人でした。1846年にフランス東部の自然豊かな古都ナンシーに生まれたガレは、幼い頃より植物や文学に親しみ、彼の芸術の豊かな素養を育みました。若くして体験したパリ万博では異文化に触れ、とりわけ、「ジャポニスム」に強く影響を受け、日本に憧れを抱き続けたと伝えられています。のちに、フランスを代表する工芸家として世界的な名声を博し、1904年に58歳でその生涯を閉じた後もその作品は世界中で愛され続けたのでした。

そして、数々の優れたガラス工芸家たちの中でも、ガレ様式を受け継いだ存在がドーム兄弟でした。彼らの作品はガレの模倣にとどまらず、独自の世界観と造形表現を追求した稀有なものでした。本展では、日本に集うガレとドームの数ある作品から、エミール・ガレ生誕170周年を彩るに相応しい貴重な名品の数々を、未公開作品を交え、総点数約100点で展覧いたします。



葡萄とカタツムリ文花器
ドーム兄弟



サン＝ニコラ＝ド＝ポール教会と湖水風景文花器
エミール・ガレ



ドラジュワール
エミール・ガレ